



No.008

能登北部地域医療研究所

のとけんだより



2012.05.22

— 医学を学ぶ為の第1歩を 地域医療から学ぶ —

金沢医科大学医学部1年生が 早期臨床体験実習で奥能登の在宅医療・福祉介護を体験！

金沢医科大学 能登北部地域医療研究所（石川県寄附講座：所長 中橋毅教授）では、金沢医科大学医学部1年生8名を受け入れ、早期臨床体験実習の指導を行いました（期間：2012.5.15～16、5.17～18）。

当研究所では、公立穴水総合病院の協力で、在宅診療の動向、診療所活動の見学、介護老人保健施設「あゆみの里」での福祉介護体験を内容としたタイトなスケジュールを2日間で組み上げた濃厚なプログラムを提供しており、医学生諸君に地域医療の現状を体験して頂きました（学生達は、少し実感できた様です）。総括・振り返りの時間では、医学生各自が熱く自分の思い思いを語り出し、帰学時間が過ぎてても地域医療討論が続き、大変有意義な時間となりました。



老健 あゆみの里



兜診療所見学



在宅医療見学

ある学生から、「穴水町の地域医療では、その人の人生を見据えた医療・介護福祉が提供されていることに気づきました」「地域や町民の方々は、病院や診療所だけが支えているのではなく、田舎のコンビニや村の自治会、公民館、婦人会や老人会等の協力が大きく影響しているんですね！」などの感想がとても印象的でした。

6年後、彼ら彼女らが医師となって再び地域医療研修をここ学ぶことを期待したい。みんな頑張れ！ 人生の数年は必ず地域医療で活躍してほしい！

<補足と説明>

この早期臨床体験実習は、医学生が、社会における医療と福祉・介護の接点について、早期に実地体験をすることにより理解を深め、将来医師となるために必要な学習の動機付けを行うことを目的としています。個別目標としては、このプログラムをとおして以下のことができることを目当てとしています。

- (1) 入所者、患者さんとコミュニケーションをとることができる。
- (2) 食事介助を行うことができる。
- (3) 入浴介助を行うことができる。
- (4) 諸検査介助などのエスコートを行うことができる。
- (5) 体験をとおして、医療および福祉・介護について自ら意見を述べるができる。

早期臨床体験実習を振り返って

(G1: 2012.5.15～5.16)



塩谷都代



上川 修



大浦健太郎



高宮悠子

■ 学籍番号:MB2-0198 大浦 健太郎

今回の早期体験実習で、自分が行った公立穴水総合病院は、高齢者に対する医療が数多く行われている病院でした。実習の初日では、高齢者で障害を持っており、外出をすることができない方達を診療する先生方をそば

で見ることができ、地域に密着した医療の在り方を間近で体験することができました。二日目には、病院と併設されている老人介護施設に行き、障害や痴呆を持った老人たちの介護の現場を見させてもらい、さらに前日にDVDで観た資料で特集されていた、やぶこし商店とい

う名の地域に密着した店などを訪れることで今後の日本に必要なようになっていこう医療の在り方を見ることができました。今回の実習で学べた体験を元により医者になる道を進みたいと思います。

■学籍番号:MB2-0162 上川 修

公立穴水総合病院はお年寄りの方が多く暮らしておられる地域にある病院とは訪れる前に聞いていたのですが、実際に訪れた時、病院にいる人達が本当にお年寄りの方ばかりで、驚かされたのを覚えています。早期臨床体験実習では、体が不自由な方の為に病院に通う事さえできないお年寄りのお宅の訪問診療に同行させてもらいました。

そこでは、専門的な会話などは当然ながら理解することはできませんでしたが、診療を受けられたお年寄りの方々は先生や看護師の方々に心から感謝している様子は、見てとれました。先生・看護師と患者さんとのやり取りを見ると、どれだけ地域医療・訪問診療が大切で重要であるかをまじまじと感ずることができました。診療中は後の方で見学していただけでしたが、とても多くの事を学ぶ事ができ、本当に素晴らしい経験となりました。これからは、早期臨床体験実習で学んだ事を励みに勉学に励んで行きたいです。

■学籍番号:MB2-0605 高宮 悠子

今回の実習で私は過疎地域における医療の大変さを改めて実感しました。病気の患者さんを治すということだけでなく、交通手段を持たない、又は自力で動くことが難しい患者さんがどうすれば治療を受けられるか、ということや介護が必要で、一人っきりで住んでおられる、又は老々介護になってしまっている患者さんをどう支えていくかなど、過疎地域には様々な解決の難しい問題があることがわかりました。日本の老年人口がさらに増えていく将来、治療、リハビリ、介護の全てをひっくるめた医療における問題解決が急いでなされなければい

けないと感じました。

今回、私が見学に行った兜地区にはやぶこし商店という過疎地域で暮らすお年寄りの方々の支えとなっているものがありましたが、この例は特別で、他の過疎地域にはほぼないだろうから、やぶこし商店が果たしている様々な役割と同じことを行う制度や機関があれば、医療を含めた過疎地域における生活が向上するだろうと思いました。

私は今回の実習で見聞きして感じたことや学んだことをもとにして、将来医療の中心になってくだろう老人医療についてもっと考えて行動していきたいと思えます。患者さんの病気だけを見るのではなく、患者さんの人生などその人自身をみて向き合っていけるような医師になりたいと強く感じ思えるようになったことが今回の実習で得ることのできた最大の成果です。

■学籍番号:MB2-0485 塩谷 郁代

今回の実習で、医師として必要なことはもちろん、地域医療の現状など、本当にいろいろな事を学びました。その中でも「医師は病気だけを見るのではなく、その患者さんの人生全てを見て、その人の幸せを一番に考えること」が一番今回の実習で感じました。介護などのコメディカルとうまく連携して、患者さんが一番幸せになれる方法を考え提供したり、というような、医師がその人の生活などの背景を見て、介入することが地域医療には大切なことであり、必要とされていることなんだと感じました。

今回の実習は、将来のことも少し明確になって、今すべきことは何かということも考え直せ、モチベーション維持にも本当に良かったです。

お世話をしてくれた先生方は本当に優しく、いろいろな話を聞かせてくれて、感謝しています。地域の人々も温かい人ばかりで、良い町だと思いました。また、是非来たいです。ありがとうございました。

(G2: 2012.5.17~5.18)



■学籍番号:MB2-0241 長田 泰広

有意義な早期臨床体験実習になったと思う。往診についていくことなどなかなかない事なので勉強になった。また、僻地の現状を見ることができてよかったと思う。

まず、初日の往診で患者さんに嫌がられるんじゃないかと思っていたがそんなことない様子だったので驚いた。患者さんと患者さんの家族を幸せにしてあげることが医師の仕事なので医師になろうとしている人間として、私は患者さんとその家族に何が出来るか考えなければならぬ。日本はすでに高齢者会でさらに高齢化は進んでいるので、これからは医師数が少ない地方だけでなく都心でも同じような問題がでてくる可能性が高いので地方だけの問題ではないことが分かった。

また、介護施設では痴呆の人と話したり、入浴の様子を見たりして家族の大変さや、スタッフの大変さがよく分かった。移動させるのだけでもずいぶんと苦労していた。あれを家でやるとなると家族にはとても大きな負担になる。わたしの実家の近くに介護施設が2件あるのだ

が両方とも建てられてすぐに入所者がいっぱいになった。今までそういう施設のスタッフが足りていないという話を聞いた時は半信半疑だったが、実際に色々見て人数が必要なんだとよく分かった。今まで日本が高齢者会だといっても大したことないだろうと思っていたが、いい気な問題なんだと実感できた。

今回の実習は、今まで見たことがない色々なことが見られて貴重な経験になった。

■学籍番号:MB2-1013 安田 奈央

今回の早期臨床体験実習で初めて、在宅診療の見学、介護老人保健施設での活動や、小さな村の診療所の見学を行いました。

1日目の在宅診療では、4つの家を訪ねましたがどの人も思うように体が動かない、又は動かしにくい方達でした。また、寝たきりの1人暮らしのおばあさんは、ヘルパーさんが居ない時はどのように過ごしているのだろうかと思うと、悲しくなりました。私達が風邪にかか

って1日、2日間を1人で横になっているだけでも暇でしょうがないと思うのに、話し相手もない、体が動かないことは精神的にもかなり大変なことだと思いました。また、先生が在宅の患者さんに「次は来月です」とおっしゃったのを聞いて月に1度だけの診療は少なすぎると感じたのと同時に、在宅診療のできる医師の数が本当に少ないことを感じました。

2日目の介護老人保健施設での活動では、車椅子を押したり、寝たきりの人がどのように入浴するのか等の見学をしました。私の祖父母は現在も元気なので、あまり元気がない老人や認知症の方と接する機会がなかったため、最初はどのように接すれば良いのかわかりませんでした。しかし、施設の方と同じように大きく聞き取り易い声で話したりするうちに、自分の方から話をして下さる方もいて、とてもうれしく思いました。

診療所の見学では院長先生や看護師の方から優しく丁寧に色々な説明をしていただきました。自分の専門以外の分野でも診療する先生は、今の仕事の事や昔のことを話して下さいました。私も先生のように多くのことを体験し、経験豊かな医師になりたいと思いました。

1日目の“田舎のコンビニ”のDVDで事前学習した「やぶこし商店」を訪問しました。DVDにあった通り今日も地元の方が何人かいらっやっていました。お店の方も元気に営業して常に笑顔で周りの人に元気を与える人だなあと思いました。また、私達実習生にも「頑張ってください。」と言って下さいました。

この実習で改めて医師という存在がどれほど人の役に立つのか、また医師のみならず看護師や施設の方や地域の方々が必要な存在なのかを認識しました。今回学んだことを一生忘れず、本当に人の役に立つ医師になりました

いと強く思いました。

■学籍番号:MB2-0514 島田 瑤子

1日目は在宅診療見学をしました。寝たきりの、1人暮らしの人、膝がまがっていた人、色々な患者さんがいました。どの患者さんも中橋先生が来るのを楽しみにしていて、先生に自分の体の不安や悩みを打ち明けたり、歌をうたって元気な様子をアピールしている人もいました。また、患者さんだけでなく、苦労している周りの家族の方も、在宅診療の際に介護の相談などをもちかけていました。両者の立場を実際見て、在宅診療は患者さんにとっても、その周りの家族にとっても大切な、必要とされている医療なのだと感じました。

2日目は「あゆみの里」へ行きました。介護を体験しましたが、高齢者の方々と接するのは、難しいことだと思いました、何を言っているのか分からない、伝わらない、忘れてしまう…。私はそんな入所者の方々の前ではおろおろとしていましたが、理学療法士の方は入所者と普通に会話をし、テキパキと仕事をしていました。在宅診療も、あゆみの里もどちらも病気だけ診るのではなく、患者さん本人の気持ち、周りの環境などいろんな視点から患者さんをみている医療だと思います。そんな医療をうけられる、支えられている穴水の人々は幸せだと思います。

学習目標で、社会における医療と福祉を自分なりに考える目標がありましたが、今回は“患者さんをみる”医療・福祉を体験できました。これから医師になるまで、いろんな形態の医療を見ていきたいです。

公立穴水総合病院・能登北部地域医療研究所に来てとてもよかったです。2日間ありがとうございました。



○問い合わせ（濱中・橋本・濱崎）

能登北部地域医療研究所（公立穴水総合病院内）

電話 0768-52-0655 FAX0768-52-0658

E-mail ccm@kanazawa-med.ac.jp

〒927-0027 石川県鳳珠郡穴水町川島夕-8
